

(続紙 1)

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	桐越 仁美
論文題目	西アフリカにおける気候帯を越えた民族の連携と結節 —サバンナおよび森林地帯の生業とコーラナッツ・ビジネスの展開—		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、西アフリカのサバンナ地帯に暮らす人びとの農耕形態と生業構造を捉えたうえで、ガーナ南部の森林地帯に移住したサバンナ出身者たちの生活の変化と移住の経緯に焦点をあてて、コーラナッツ取引 (以下、コーラナッツ・ビジネス) にみられる民族間の連携やネットワークの構造を詳細に分析し、ゾンゴと呼ばれる移民居住区の結節機能を明らかにしている。</p> <p>序章では、先行研究をふまえて、西アフリカにおけるトランス・サハラ交易の歴史的変遷を概観したうえで、過去の気候変動や国家政策の変化を契機とした人びとの移動についてまとめている。1970年代の干ばつや1980年代の構造調整政策によって、サバンナ地帯の人びとはガーナ南部の森林地帯へ現金稼得を目的に移住し、広大な西アフリカを対象とする交易に従事した。西アフリカ交易のなかで平和裏に築かれていった民族間関係を分析し、ガーナ南部への北部民族の移住において大きな衝突が回避されてきた社会的メカニズムを検討するという本論文の目的を提示している。</p> <p>第一章では、西アフリカを対象に、緯度にもなって変化する生態ゾーンについて、その気候や地形の特徴を解説し、南から森林地帯、湿潤サバンナ地帯、乾燥サバンナ地帯、サハラ砂漠へと移り変わる各生態ゾーンのなかで培われてきた生業形態や言語系統、民族文化を概観しながら、それぞれの地域に暮らすハウサやダガーレ、クサシ、アサンテといった諸民族の特性を明らかにしている。</p> <p>第二章では、ニジェール南部の乾燥サバンナ地帯における農耕民ハウサの生活実態を、主要な生業である農耕や村外への出稼ぎに焦点をあてながら明らかにした。ハウサは、侵食による耕作地の荒廃とそれにもなう生産性の低下に対処するため、牧畜民と野営契約を結び、耕作地に家畜糞を投入することで生産性の低下を抑えている。耕作地の土地生産性の向上をめざす一方で、不足する食料を補うために男性の多くが村外へ出稼ぎに行くという基本的な生活様式を解明した。</p> <p>第三章では、ガーナ北西部の湿潤サバンナ地帯における農耕民ダガーレの農耕形態と季節労働について検討することで、不安定な降雨量のもとで暮らすダガーレの生計戦略を明らかにした。ダガーレは土壌侵食に対処するためマウンドと畝を造成する。降水量の大きな変動のもとで生計を維持するため、ガーナ南部のアカン系民族の領域においても生活拠点を持ち、恒常的にガーナ南部への移動を繰り返すことで生活を成り立たせていた。</p>			

第四章では、カカオとコーラナッツという換金作物の生産に焦点をあて、ガーナ南部に居住するサバンナ出身者の生業形態について明らかにした。サバンナ出身者はアカン系民族の領域において移住者の居住区ゾンゴに集住し、その多くがコーラナッツ・ビジネスに関わっている。彼らはガーナ南部に移住する際に、コーラナッツ・ビジネスの人間関係を利用していることから、ゾンゴが単なる居住区ではなく、新参者を受け入れる商業ネットワークの拠点として機能していることを明らかにした。

第五章では、西アフリカにおけるコーラナッツ交易の歴史を概観し、18～19世紀に構築されたハウサ商人による商業ネットワークについて記述し、現在のコーラナッツ・ビジネスとの類似性を明らかにした。ハウサ商人やガーナ北部のクサシ商人たちは西アフリカ各地に交易拠点のゾンゴをつくり、巨大な商業ネットワークを構築するとともに、ゾンゴを通じて地域住民との連携を図っていた。このような商業ネットワークは、民族の異なる商人どうしが連携する現在のコーラナッツ・ビジネスにも認めることができる。本章では、現在の取引にみられるコーラナッツの採取者や商人、買付や販売、輸送に関与するブローカーなどが複雑に関与する商業ネットワークの全容を明らかにしている。

第六章では、ガーナ南部の都市と農村において、サバンナ出身の移民が生活するゾンゴの形成と発展について検討している。ハウサ語でゾンゴは「交易拠点」を意味し、18世紀にコーラナッツと奴隷の交易に従事するムスリム商人がゾンゴを形成したのがはじまりである。現在では商人たちがコーラナッツの円滑な流通を可能とするため、ゾンゴを拠点に商業ネットワークに参画している。この商業ネットワークによってコーラナッツだけではなく、西アフリカ各地に農産物や工業製品が流通している。

終章では、以上を総括し、西アフリカにみられる民族を越えた商業ネットワークとそれを支えるゾンゴの結節機能について考察している。西アフリカの人びとは、新たな人との出会いやビジネス・チャンスを求めてゾンゴに集まり、ゾンゴを拠点とする商業ネットワークを形成している。今では中東やアジアにもゾンゴが存在し、コーラナッツ・ビジネスを原型とする商業ネットワーク・モデルが世界中に展開していることを指摘した。奴隷貿易やイギリスによる植民地統治という歴史的な累積のなかで、ガーナでは南部のアカン系民族と北部の諸民族とのあいだには敵対感情が潜在するが、ゾンゴを拠点とする商人のあいだには商業的な関係性が結ばれており、西アフリカの南部と北部で異なる民族や宗教を越えて、国・地域をまたぐ人びとの連携が可能となっていると結論づけた。